

地元への関心が高まっています。

特集 親子で話そう、青森県へのUターン

コロナ禍によるリモートワークの広がりなどの環境変化により、若者を中心に地元への関心が高まっています。

生きる場所・働く場所として青森を選び、Uターンした若者の本音とは？

遠くに住むわが子のこれからの人生について、親として今できることを一緒に考えてみませんか。

＼私たち、Uターンしました！あおもり暮らし座談会／

一度県外に出てUターンした4名に、Uターンしたきっかけや今のお仕事のこと、地元の魅力など、それぞれの“あおもり暮らし”について伺いました。

神奈川県 ▶ 青森県

ささき めい
佐々木 芽さん
【30代／青森市在住】

2019年11月にUターンし、現在は実家で家族と暮らしながら日野建ホーム株式会社で営業職に従事。



東京都 ▶ 青森県

おくざき ゆうた
奥崎 有汰さん
【30代／青森市在住】

県外にある株式会社シーズ総合政策研究所に所属し、仕事を变えずにUターン。現在はフルリモートでこなしている。



北海道 ▶ 青森県

なりた ゆうだい
成田 雄大さん
【30代／藤崎町在住】

合同会社グランドアグウィル代表。北海道で整備士として働いたのちにスキークロス全日本メンバーとして活躍。Uターン後、りんご生産者に。



東京都 ▶ 青森県

たなか みか
田中 美華さん
【30代／八戸市在住】

株式会社リモートストーリーズ代表。個人事業主として2017年に東京からUターンした後、リモート業務サービスを提供する会社を立ち上げた。



地元へのUターンを決めたきっかけ

成田さん スキー競技に専念できる環境を求めて札幌の高校に進学しました。その後、一度は自動車整備士として道内で就職したものの、オリンピックを目指すため退職し、青森に戻って祖父のりんご園でアルバイトをしながら国内外を転戦。引退後、青森に残ったのは当時交際していた今の妻が青森にいたことも理由の一つです。

佐々木さん 私は通勤時間に往復2時間もかける生活がずっと続くことに疑問を感じ、そして親の年齢を考えた結果、地元で働くのもいいかもと思いついて。もともと、いつかは地元で暮らしたいと考えていたこともあり、Uターンに向けて動き出しました。

奥崎さん 青森に戻るイメージは全く持っていませんでした。新型コロナウイルスの影響でリモート業務になったのがきっかけです。東京でなくても仕事ができることが決めた手でした。

田中さん 私も、外国に住むことはあっても青森に帰ることはないと思っていました。その考えが変化したのは子どもが生まれてから。都会では保育園に入れるのも大変で、もっと

のんびり暮らしたいと思い、戻ってくることにしました。

青森で働くことーリモートワークの広がりーUターンを後押し

成田さん 私は今、祖父の園地を継いでりんごを生産しています。

奥崎さん Uターンに当たって転職はしませんでした。地域・産業振興をお手伝いする県外の会社に勤務していて、Uターン後も引き続き青森にいながらリモートで県外の会社の仕事をしていきます。

田中さん 私は英語を教える仕事をしていて、仕事をオンライン化すればUターンが実現できると考えていたのでそこに力を入れました。Uターン後、オンラインでできる仕事の幅も広がり法人のお客さまが増えたので、会社を設立しました。今でも首都圏のお客さまが多いですね。

佐々木さん Uターンを考え始めた時に母親に相談したら、県の就職支援制度が載った新聞記事を送ってくれました。その制度を利用しながら就活を始め、それまでの不動産関係の仕事の経験を生かせる職場を選びました。



＼データで見る／Uターン経験者の本音

県内に在住の男女30人にアンケート

Q1. Uターンに満足していますか？

